

和歌山平野の表層地盤構造 Subsurface structure around Wakayama plain

北田 奈緒子^{1*}, 伊藤 浩子¹, 井上 直人¹, 三田村 宗樹², 竹村 恵二³
KITADA, Naoko^{1*}, ITO, Hiroko¹, INOUE, Naoto¹, MITAMURA, Muneki², TAKEMURA, Keiji³

¹ 地盤研究財団, ² 大阪市立大学・理, ³ 京都大学・理
¹Geo-Research Institute, ²Osaka City Univ., ³Kyoto Univ.

関西地盤研究会では、2カ年をかけて和歌山平野地下の地盤情報を収集して表層地盤構造を検討するとともに、基準ボーリング調査を実施して、表層部の地質特性および地盤特性についての検討を行ってきた。これらの内容は「新関西地盤 和歌山平野」においてとりまとめを行った。本発表では、このときの検討、取りまとめ内容を中心に、和歌山平野部の地下の地質の特徴やその分布について述べる。

調査は紀ノ川周辺から和歌川に沿って、海南地域までの、主として港湾部～平野部を中心に集められた約2000本の工学ボーリングを用いて検討した。また、和歌川では基準ボーリングを実施して、地質コアを用いた堆積環境解析などを行い、対比の基準とした。

一級河川の紀ノ川は礫質の粗粒物を多く供給し、河川の南北に分布する後背地には砂や排水不良の湿地を作る。南部の和歌川は河川勾配が紀ノ川に比べて小さいのが特徴であり、海成の沖積粘土や洪積粘土が比較的連続的に分布することがわかる。港湾部では沿岸流の作用により、砂丘や砂堆が広く分布し、その分布は、紀ノ川河口部にも大きく影響を及ぼしている。これらの特徴はボーリングデータから詳細に検討することで分布域や特徴を抽出することが可能である。

また、海水準変動による海成粘土の分布は平野内陸部にも見られるが、紀ノ川と和歌川の勾配の違いなどにより、分布に大きな特徴が見られる。これらの特徴について発表を行う

キーワード: 和歌山平野, ボーリング, データベース, 堆積環境, 沖積層
Keywords: Wakayama Plain, borehole, database, sedimentary environment, alluvium